運営委員からのメッセージ特集！

新型コロナウイルスが猛威をふるっています。そのため、「刻む会」の活動についても残念ながら、現在は、様々な制限のもと、活動せざるを得ない状況となっています。
今回の紙面は、そんな中、日々がんばっている運営委員から寄せられたメッセージを中心にお送りします。

刻む会たより

NO. 78

2020 年 9 月 23 日

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会　共同代表　井上洋子・木村道江

事務局　宇部市常盤町一―一―九（宇部緑橋教会内）　TEL０８３６（２１）８００３
カンパ振込先　ゆうちょ銀行　口座番号　０１５９０-７-３２４０５
名義　長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会
年会費　《正会員》個人３，０００円　団体５，０００円
《賛助会員》個人１，０００円　団体２，０００円
ホームページ　https://www.chouseitankou.com
メール　chouseitankou@gmail.com

遺骨の発掘返還は私たちの世代で

共同代表　井上洋子

思い起こしてほしい。２０１３年追悼碑を除幕した後に開催された追悼集会は、「刻む会」に対する遺族会からの言わば糾弾のような発言が相次いだ。『「刻む会」は追悼碑を建立してこれで幕引きをしようとしてないか』と…

実際その集会の司会をしていた私は、念願の追悼碑を建立したという喜びと高揚感の中にいた。しかし、遺族会は今後の「刻む会」の活動について事前にしかも入念に打ち合わせをされていたようだ。遺族会の金亨洙（キム・ヒョンス）会長並びに孫鳳秀（ソン・ボンス）事務局長は、「遺骨を収集して故郷に安置したい」「ここにお集まりの日本人の皆さんが強く日本政府に訴えてほしい」と並々ならぬ決意を持って、加害国、加害者への鋭い糾弾ともいえる発言をされたのだ。

それを受けて山口武信代表は、いたたまれなかったのか、集会の最後に再度登壇し、「一番心にかかっていることは遺骨。…出そうと思えば出せないことはない。…そこまでいって初めてこの事業は終わるんじゃないかと思う…」と集会を結び、それが彼の公式の場での遺言となった。

発足当時から遺族会は遺骨発掘を要望し続けていたが、私たちは自分たちの力量を鑑み、遺族会の願いを側面から支援するに留まり、遺族の切なる願いを自らの課題とすることに躊躇してきた。それは日本人側の独りよがりの運動だったと言われても返す言葉もない。

翌２０１４年「刻む会」は遺族の願い、思いに応えるべく「遺骨発掘収集」という果てしない目標に向け新たな組織体制のもと再出発をした。

今後韓国政府と遺族会、「刻む会」の三者は益々固く連帯し、日本政府に対して遺骨発掘をさらに強く要求していくことになる。事故からすでに78周年経過し、遺族の皆様の高齢化は避けなれず、毎年追悼集会に出席されていた全錫虎（チョンソッコ）さんも体調を崩されていると聞く。かくいう私も70歳を超えた。次の世代に先送りすることなく、私たちの手で遺骨発掘を実現させなければならないと強く思う。

30年の活動を振り返って…

共同代表　木村道江

共同代表の任にありますが、運営委員では最年長(79歳)であり、難病の後遺障害をかかえ充分な働きができないことをとても心苦しく思っております。それでも30年近く「刻む会」に関わってきたことを振り返ると、運営委員のメンバーと共に今日まで歩んできたことの数々、その喜びや苦しみ、ある時はご遺族の証言に涙したこと等々…いつの間にか、現役時代の山口武信先生や澄田牧師の年齢に近くなってきました。最後の任期を何とか元気で過ごすことができるように思っています。

この夏は、敗戦から丸75年が経った8月15日、各地で日本が植民地支配し、数々の過ちを記憶し、後世に伝えることや東アジアの平和と安定のための…等々の報道が少なかったようです。世界中がコロナ渦の真っ只中にある状況にあり、これも今はしかたないのかなぁと思いつつも、やはり「刻む会」の今後の事が頭から離れないで過ごしています。強制連行の事実、強制労働を強いられたことは、生存者の証言にありますし、強制労働の末、命を落とした人々は、今も海底に放置されている事実、無念の死であったろうことは、今も海に立つ2本のピーヤを見るたびに、遺族の心を、そして私たちの胸を締め付けます。

私の所属する基督教団は、過去の戦争に協力したことへの反省を告白しています。緑橋教会は、責任告白の具体的な取り組みとして「刻む会」の事務局を預かり、教会員の協力のもとにあります。このことが老身の私の心と体を後押ししているのです。会の活動目標は、国家間のあり様に困難な事柄が山積みです。日韓の現状は友好協力もままならないのが現状ですが、遺族の方々との30年近くなる交流が信頼関係を築いてきました。これは「刻む会」の財産です。

コロナ渦の社会は、経済は…といろいろ言われていますが、コロナ後の新しい社会のあり様に望みをもちたいと思います。国家間がどうであれ、民衆一人一人が過去のことも現在のことも、両国がやってきた努力も失敗も含めてもう一度両国間を見直すことで新しい未来を築くために努力することに希望をもちたいです。その中で私たちの運動も、広く市民社会のなかで理解と共感が広がっていくだろうし、遺骨回収実現の道筋も見えてくるだろうと信じています。

死者の追悼と歴史

事務局長代行　小畑太作

感染症パンデミックの中で、改めて人間があるいは人間社会というものが、死に向き合い難いものであることを曝け出しているように思います。つまり、事実に適切に向き合うのではなく、過剰に恐怖したり、逆に事実がないかのように振る舞ってみたりと、挙げ句、そうした不安や恐怖を周囲にぶつけてみたりする有り様です。

足下に横たわり続ける事実は死であり、しかしそれは唐突に現れたのではなく、いつもの通り過去の作為と不作為の結果なのですが、そんな歴史が語られるのは、ずっと後のことになりそうです。「ずっと後」と言うのは、よく言う「歴史化は50年後」という程度ではなく、いつになるか分からないずっと後、という意味です。

と言うのは、敗戦から75年を経て、未だこの国はあの戦争についてちゃんと歴史化出来ていないからです。そしてそこに常にあるのが、靖国神社に代表される「死者の追悼」です。もっともこの場合大抵は「慰霊」と言うわけですが、言葉そのものの違いはさておいても、申し上げたいことは、歴史化のために死者を意味付け利用するということです。

この感染症自粛の中で、法律家であり歴史家でもある尊敬する方が、戦没者の国立追悼施設の必要を主張するのに触れて、改めてこの事についてつらつら考えています。未だ結論を得てはいないのですが、今のところ、どうも集団が、取り分け公が、死者を意味付けるのはやはり止めた方が良いように思われます。理由を記す紙幅はありませんが、死者との関わりが個人を超えた途端に、差別を生じ、歴史を見る眼が曇るようにしか思えないのです。

と言うと、「刻む会」はどうなのか、もっと言えば、わたしの生業であるキリスト教はどうなのかも、つらつら考えています。

過去の悲劇を繰り返させないために

運営委員　金静媛

海にそびえ立つ二本のピーヤ。その海の底に136人の朝鮮人を含む183人もの水没事後犠牲者が放置されている事実を知ったのは「殉難者の碑」（通称・男たちの碑）が1942年の事故から40年経って建立された1982年だった。

その2年後、実際に現地に赴き、碑を訪れると事故当時の会社側関係者の方たちが建立委員で、被害者ではなく建立委の名前が刻まれていた。

在日朝鮮人2世である私がその時感じたことは、日本人が多数の朝鮮人を含む犠牲者を悼み追悼の意を込めて碑を建てられた事に、深い思いを巡らせることなく感銘や、感謝の思いだった。

その後、建立者ではなく被害者の名前を刻んだ碑を建てねばなど、3つの課題を掲げ「刻む会」が発足し、皆の多大な努力と紆余曲折を経て、遺族会の意向を反映した追悼広場が完成した。碑の意義についても会の皆から多くを学び、当初の私の思いも変わっていくことができ意義を共有するに至った。

今、私も微力ながらも運営委員のメンバーの一員だ。会の活動課題には植民地支配の被害者の子孫である在日の子ども達の民族教育の権利拡充、朝鮮学校支援も掲げ、日本市民、在日の皆と共に取り組んでいる。

会の精力的な活動により、長生の歴史が全国そして朝鮮にも広がり、現地を訪れる団体、個人が後を絶たず、支援の輪も広がってきた。

今後、日本の植民地支配が清算され朝鮮が統一し、遺族に犠牲者の遺骨返還が実現し、悲劇が繰り返されないために、今後も地道な活動の大切さを痛感する。

雑感

運営委員　佐々木明美

最近のアメリカで相次ぐ黒人差別死傷事件、しかも、警察という公権力が加害者とは!!

キング牧師が、「私には夢がある」と人種差別撤廃を訴えた演説から半世紀以上経つのに!!

今もって、これほど露骨な人種差別があるとは、アメリカの民主主義のレベルを疑ってしまいます。

しかし、ちょっと待って!!振り返ってわが日本はどうなのか??

いま私たちは、「長生炭鉱」や「朝鮮学校」の諸課題に取り組んでいます。その根底には、いわれなき韓国・朝鮮人差別が現存しているのではないでしょうか!!

あからさまな差別や偏見であれば、批判され勧告されます。しかし、アメリカのように露骨ではないだけに、課題は深刻です。

かつて、戦争遂行のための労働力確保策として、朝鮮半島から日本に強制連行されてきた彼らのルーツを、私たちは決して忘れてはなりません。

「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の前進のために、これからも一緒にに頑張りあいましょう!!

「県は、朝鮮学校職員へ応援給付金を支給すべき」

運営委員　藤本一規

私は、「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の運営委員になって数年が経過しました。「刻む会」を通じて、山口朝鮮初中級学校を支援する運動に関わってきました。

そのような中、昨年5月、国は、「幼保無償化」の対象から外国人学校を除外しました。県は、朝鮮学校幼稚部を「幼保無償化」の対象から外しました。

昨年12月、日本弁護士連合会の菊池裕太郎会長は、「外国人学校の幼児教育・保育施設を無償化措置の対象とすることを求める会長声明」（以下、日弁連会長声明）を発表しました。日弁連会長声明は、「外国人学校が各種学校であることを理由に、外国人学校の幼児教育・保育施設に通っている子どもを無償化制度の対象から除外することは、憲法14条、自由権規約2条1項、社会権規約2条2項、人種差別撤廃条約、子どもの権利条約2条1項などが禁止する差別的取扱いに該当するおそれがある。」と指摘しています。

県は、6月県議会に幼稚園や学童保育指導員等に一人5万円の「応援給付金」を支給する補正予算を提案しました。しかし、県は、朝鮮学校の学

童保育や幼稚班の職員への「応援給付金」を支給しませんでした。

私は、まず、朝鮮学校幼稚部職員に応援給付金を支給すべきと質しました。内海総務部長は「応援給付金は、国及び県の要請に基づき、運営を継続した施設を対象にしたものであり、要請を行っていない各種学校である朝鮮学校は対象としていない」と答えました。県は、各種学校を理由に、朝鮮学校を制度の対象外としたのです。

次に私は、朝鮮学校学童保育職員に応援給付金を支給すべきと質しました。県は、山口朝鮮学校に学童保育の開所要請を行いました。その理由を内海部長は「県は参考までに通知は朝鮮学校を含むすべての私立学校等に送付した」と答えました。しかし、県は、朝鮮学校が放課後児童クラブではないことを理由に応援給付金を支給しませんでした。

朝鮮学校を制度から除外する県の行為は、日弁連会長声明が言う「差別的扱いに該当するおそれがある」ものと言わなければなりません。朝鮮学校補助金復活、幼稚班幼保無償化実現、応援給付金支給を求めて行きましょう。

長生炭鉱について

運営委員　宮本輝男

私は、ご縁があって今床波に住んでいます。歩いて10分程度のところに、ピーヤがあります。海岸道路を通って、宇部市内に向かうときは左手の海岸のすぐ沖に、二本のピーヤを見ることができます。

何気なく海岸に立っているように見える二本のピーヤですが、この下の坑道に１８０を超える人たちが水非常によって亡くなられ、80年近くたった今なおその遺体が海底に取り残されていることに、見るたびについ合掌をしたくなる衝動にかられます。

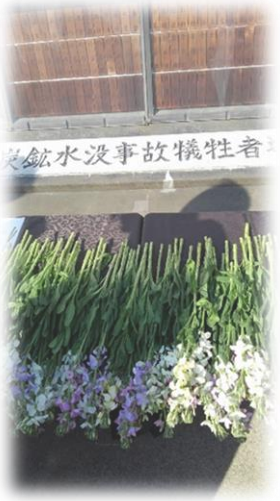
第２次大戦前に日本が韓国を併合し、戦時政策のために韓半島から来られた多くの人たち（１３７名）の遺体も、生まれ育ったところではない異国の地に置かれたままです。そのことを思えば、胸が痛みます。

日本政府は、戦時の政策で石炭の増産を推し進めてきて、その結果としての長生炭鉱の事故ですから、アメリカの兵器の爆買いを中止してでも、もっと遺体の収集に予算をあて力を注ぐべきです。

ましてや、韓半島からの出身地に住む遺族のもとに遺体を返還すべきです。

もっと、韓半島出身者の遺族の思いに寄り添うべきです。

私は、韓半島出身者をはじめある意味では戦争の犠牲になられた１８３の御霊が安らかになるように活動を続けていきます。　合掌



遺骨収集に全力を傾ける

運営委員　松元　一也

「刻む会」とのきっかけは井上洋子共同代表と１９９５年ごろに勧められて長生炭鉱事故を知ることになりました。当時は仕事上日曜しか休めないので深く関わることは出来ませんでしたが、病気になってアルバイトに転職したことで今は活動に関わることが出来るようになり、運営委員になりました。長生炭鉱の遺骨問題は、どんなに困難さがあっても人道上放置できることではないと思います。アジアへの侵略戦争遂行のため朝鮮、中国から強制連行してひどい環境でこき使い、命を奪ったことを昔のことだからと忘れてはいけません。

山口先生が奮闘されていた頃は、追悼式を行うのがやっとこの時期でしたが、「3千メーターもの海底から船を引き上げることが出来る時代に、長生の浅い海底から遺骨を引き上げることはできないのですか？」と、聞いたことがあります。

先生は「技術的には不可能なんだよ。」と言っていたのを思い出します。

なくなられる前に遺骨を遺族に返す運動にしていきたいとおっしゃったと聞いて、その目標は残っている私たちの世代が取り組まなくてはいけないと強く感じます。坑口付近の土地取得と発掘事業は現在の力量以上のテーマですが検討を進めたいと思います。

未来に続く活動に…

書記　山内弘恵

私が長生炭鉱の問題に関わってからもう25年も経ってしまった。その間に、子ども達が生まれ、追悼集会でご遺族に会うたびに、「子どもたちは大きくなっただろうね。どうしている?」と聞かれる。昔は夜に会議があったので、子ども達を連れて別室で夫が子ども達の世話をして…とそんなこともあったなぁと思い返す。

「刻む会」が発足して30年になる。30年という年月は子どもが成人になるよりはるかに長い。傍から見ると、なんでこんなに時間がかかっているのか?と思われるだろうが、メンバーの多くは専門家でもなんでもない私のような知識も肩書もない素人。その上に、長生炭鉱特有の問題が大きく立ちはだかり、なかなか進まない。なのに、諦めず続けてきた原動力は、毎年開催してきた追悼集会で、犠牲者のご遺族と対面し、その悲しみを目の当たりにしてきたこと。専門家でない、知識もない…が、自分たちができることを…本当に遅々とした歩みだが…投げ出さずにやってきた結果、韓国政府と直接対話できるほどになった。もちろん、そこには、故・山口武信代表、島敞史さん(現顧問)たちの活動の成果の上に、内岡貞雄さん(現顧問)や井上洋子共同代表の行動力、木村道江共同代表の長年の後方支援、小畑太作事務局長(現事務局長代行)による理論での会の牽引をはじめ、多くのみなさんの協力があってはじめてなしえたことであるのは言うまでもない。

しかしながら、「刻む会」は問題が専門的過ぎてなかなか新しく活動に参加するというのが難しいとよく言われる。会の高齢化問題は大きな課題の一つ。日韓の若者たちの交流を進める中で、突破口を見いだせたら…と思っているが、このコロナ禍でなかなか進まず…さてどうしていこうか、日々考え続けている。

2020年8月19日(水)　西日本新聞　夕刊

戦後75年

海の排気筒"墓標"の下に

炭鉱水没 動員朝鮮人ら183遺体なお

㊤海面から突き出た「長生炭鉱」のコンクリート排気筒
㊦「長生炭鉱」跡地付近に立つ井上洋子さん
＝いずれも山口県宇部市

太平洋戦争中の1942年、山口県宇部市にある海底の「長生炭鉱」で日本人と朝鮮人計183人が犠牲になる事故があった。生き埋めになった遺体は今も海の底。海面から突き出た2本のコンクリート排気筒が跡地で"墓標"のように立つ。地元の市民団体や韓国の遺族会は約30年、遺骨の引き揚げを訴えている。

遺族ら収集訴え30年　山口

事故は42年2月、海岸から約1キロの沖合で発生。坑道に海水が流れ込み、日本人47人と戦時動員者ら朝鮮人136人が死亡した。

地元住民らが「長生炭鉱の水非常（水没事故）を歴史に刻む会」を結成したのは91年。犠牲者の名前を刻んだ追悼碑を建てようと、当時の名簿などを頼りに遺族へ手紙を送った。すると「父の死んだ場所を初めて知った」などと韓国から十数通の返事が。翌年には韓国で遺族会ができ、93年から毎年「刻む会」が命日に韓国の遺族を招き、追悼集会を開いている。

同会共同代表の井上洋子さん(70)は、韓国から初めて訪れた遺族が海に向かって号泣し「せめても」と浜の砂を持ち帰った姿が忘れられない。小学生の頃まで宇部市に住んでいたある韓国人男性は「なぜ家族を苦労させたのか」と亡き父親を恨み続けていたが、同会や他の遺族との交流を通じ父親を悼むように。訪れるたび海岸で「アボジ（お父さん）」と涙するという。

韓国の遺族とは今や「兄弟以上の仲」と井上さん。毎年の追悼集会後は皆でお酒を飲み、歌って踊る。「暗い歴史でも誠実に向き合えば、そんな関係になれた。負い目だけでなく、希望も感じる」と語る。

2013年には長年の願いがかない、追悼碑を旧炭鉱のそばに建てることができた。ただ、肝心の遺骨収集は国や県、宇部市に訴えているものの、実現していない。

日本人の遺族も広島、山口、沖縄各県在住の数人を除いて連絡が取れておらず、情報を求めている。井上さんは「遺族に遺骨を返還できる日まで声を上げ続けたい」と話す。問い合わせは「刻む会」事務局の宇部縁橋教会、電話0836（21）8003。

※　2020年8月21日(金)　京都新聞社の朝刊にも同様の記事が掲載されました！

共同通信社の記者さんが、取材して記事にしてくださいました！

運営委員ではありませんが、ほとんど毎回運営委員会に陪席し、追悼ひろばの整備やいろいろな面で協力をしてくださっている「久保武智」さんからも一言メッセージをいただきました！

「刻む会」と御縁が出来て約2年経ちました。　きっかけは「ヘリテージマネージャーの自主課題」でした。歴史産業遺産としての「ピーヤの保存活用」を調べている時に、事務局長の小畑さんと出会いました。最初は産業遺構としてしか見ておらず、水非常に関してはさほどの意識は持ち合わせておりませんでした。しかし、「刻む会」の方と接する内に自分自身が大変恥ずかしく思えてきました。宇部市で生まれ育ったにも関わらず、宇部市の歴史の闇に付いては全く知らない自分が見えてきたからです。私も含め宇部市に関わる人は、良かれ悪かれその歴史の上に立って生活をしている。しかも私は地元で建設業と言う仕事をしているのに、それを知ろうとしていない自分が情けなく思いました。ヘリテージマネージャーと言う一見偉そうな資格を持ちながら、その歴史財産を一面からしか見ていなかったのです。「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む」と言う事に深い意味を感じました。

歴史的な遺構には表に出易い華々しい側面と闇に埋もれる側面が必ず有ります。そう言う観点から遺構を見ればどれにも両側面が有る事に気付きます。良く言えば長生炭鉱にも産業を支え、雇用を生み、炭鉱で時代を支えたと言う側面は有ります。しかし炭鉱には受け入れがたい闇に属する側面も有り、長生炭鉱にも大きな闇が隠れています。まずはその事実を知る事。その後どう判断するかは人それぞれだとは思いますが「事実は事実として認識する」事が重要だと感じています。

私は戦後の高度成長期に生まれ大変恵まれた環境で育ちましたが、反面闇に隠れる部分には触れる事は少なかったと感じています。そう考えると私は世代責任から逃れていると言わざるを得ません。その私に自分の生きた時代を見つめ直す機会を与えて頂いた「刻む会」には心より感謝しています。

久保武智

活動日誌（前回たより以降）

7／7（火）　「平和フェスタ２０２０」第１回実行委員会（宇部市）
7／8（水）　山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会参加（山口市）
7／14（火）　第４回運営委員会（宇部市）
共同通信社取材
7／18（土）　真相究明ネットワーク事務局会議（Ｗｅｂ）
7／19（日）　ＢＩＹＰ実行委員会（Ｗｅｂ）
7／31（金）　「平和フェスタ２０２０」第２回実行委員会（宇部市）
8／4（火）　第５回運営委員会（宇部市）
8／12（水）　山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会・行政交渉参加（山口市）
8／18（火）　「平和フェスタ２０２０」第３回実行委員会（宇部市）
9／9（水）　山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会参加（山口市）
9／11（金）　第６回運営委員会（宇部市）
9／15（火）　「平和フェスタ２０２０」第４回実行委員会（宇部市）

会計報告（2020/06/01～2020/08/31）

【一般会計】 （円）

	科　目	年度予算	期間実績	累計	達成率	備考
	歳入					
1	会費	600,000	109,000	423,000	70.5%	
2	寄付金	900,000	219,000	316,500	35.2%	※
3	物販	46,000	700	700	1.5%	
	証言・資料集	36,000	700	700	1.9%	
	その他	10,000	0	0	0.0%	
4	雑収入	4,000	0	0	0.0%	
5	前期繰越金	51,156	0	51,156	100.0%	
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合　　計	1,601,156	328,700	791,356	49.4%	

	歳出					
1	事務費	50,000	8,188	22,455	44.9%	
2	広報費	300,000	66,843	150,359	50.1%	会報誌送料・印刷
3	会議費	30,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	1,103	1,851	18.5%	電気代 6～8 月分
5	活動費	1,035,000	1,800	1,800	0.2%	
	学習会等	135,000	0	0	0.0%	
	追悼集会	650,000	0	0	0.0%	
	その他活動	250,000	1,800	1,800	0.7%	調査
6	他団体会費等	40,000	5,000	18,000	45.0%	東京朝鮮人強制連行真相調査団
7	雑支出	65,000	13,994	30,472	46.9%	
	手数料	45,000	13,994	30,472	67.7%	
	その他	20,000	0	0	0.0%	
8	予備費	36,156				
9	特別会計へ繰出	35,000	0	0	0.0%	
	小　　計	1,601,156	96,928	224,937	14.0%	
10	繰越金	0	231,772	566,419		
	合　　計	1,636,156	328,700	791,356	48.4%	

※寄付者（敬称略）

上里　恵子　麻野　他郎　李　和　蓮　池内　友子　市川真美恵　井橋　昌夫　内本　俊昭
大黒　春江　大槻　政宏　岡屋　義之　落合紀久子　杵渕　智子　木原　千成　木村　道江
熊野　　譲　佐々木明美　澤田　知夫　澤田　雪江　白川　猶子　関田　寛雄　関谷　陽子
高橋　　信　谷本　須実　寺尾　光身　土井　桂子　戸井　雄二　富春　勇燮　浜田　光明
林　　修二　福川　寿子　福田　紀子　宮本　輝男　森次美代子　柳田　雅江　横山　正代
湧川　静子　在日本大韓民国民団 広島県広島西支部　その他匿名７名

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,195,022		工事費	16,500	リーフレット設置追加工事
繰入金	0		繰越金	1,178,522	
合　計	1,195,022		合　計	1,195,022	

【遺骨収集等特別会

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,776,668				
繰入金	0				
			繰越金	1,776,668	
合　計	1,776,668		合　計	1,776,668	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

書籍のご案内

事務局で取り扱っている書籍のご案内です。ご希望の方は、事務局までご連絡ください！

真相究明ネットワーク発刊
「明治日本の産業革命遺産」と強制労働
500 円

「刻む会」発刊
証言資料集　全３冊

絶賛！好評発売中！

頒布価格　**1 冊 300 円**
2 冊セットで 500 円
3 冊セットで 700 円

韓国・真相糾明委員会発刊書籍

← **『日本の長生炭鉱水没事故に関する報告書』**
ご希望の方はカンパ 1000 円でお送りします。

『委員会活動結果報告書』（日本語版） →
ご希望の方は、カンパ 300 円（送料込）でお送りします。

日帝強制動員被害者支援財団翻訳叢書

５冊セット 3000 円（送料込）で頒布します！
日帝強制動員被害者支援財団翻訳叢書
お申込は：小畑太作
（taisaku@mac.com／fax 0836-21-8003）

報告書「朝鮮人 BC 級戦犯に対する真相調査―捕虜監視員の動員と戦犯処罰の実態を中心に―」

口述記録集「ポンポン船に乗って海の幽霊になるところだったよ」（忠清道から福岡、長崎、佐賀など九州への動員）

口述記録集「朝鮮という私たちの国があったのだ」（大阪造兵廠、群馬中島飛行機、沼津軍属、佐世保、呉、東京陸軍被服廠、捕虜監視員など軍属として日本、東南アジア、中国への動員）

報告書「ハワイ捕虜収容所における韓人捕虜に関する調査」
＋韓国語の「太平洋戦争実記集」（沖縄の阿嘉島への動員、特設水上勤務 103 中隊）

BIYP 韓国富川の中学生との交流
BUCHEON-IKKI IKKI ASIA YOUTH EXCHANGE PROGRAM

人間いきいき研究会の企画であるＢＩＹＰ韓国・プチョン市の中学生との交流は１年毎に韓国と日本で交互に開催されています。特に日本開催では長生炭鉱のフィールドワークも取り入れ、「刻む会」も４年前からこの企画を共催団体として協力しています。
2020 年は日本側の受け入れの年で、受け入れに向けての準備を進めていましたが、新型コロナウイルスの影響で５月受入れ予定が９月に変更となり、さらに、９月開催も見送りとなりました。今後については、日韓両国で情報交換しつつ、開催できる時期を見定めていく予定です。興味のある方はご連絡ください。協力者大歓迎です！

振替用紙を同封しています。
今年度の会費納入をお願いします！
※納入情報は封筒の宛名下に記載していますのでご確認ください。

2020 年 10 月 11 日(日)10 時～11 時 45 分
平和フェスタ 2020　開催！
DVD「アボジは海の底」上映他
詳細は同封のチラシをご覧ください！

79 周年
追悼集会について
2021 年 1 月 30 日(土)
に開催します！

新型コロナウイルス感染予防の観点から、次回の追悼集会については、Web 集会を開催しようと検討しています。
詳細については、次回の『刻む会たより』でご案内します。

事務局より　*会員動静（2020 年 9 月 9 日現在）*

正会員	*127 名（当年度総会比+1 名）*
賛助会員	*273 名（当年度総会比+2 名）*
寄付者	*106 名（当年度総会比+1 名）*
計	*506 名（当年度総会比+4 名）*

会員・寄付者募集中！知人・友人にぜひ一声お願いします！